

総務常任委員会

視察研修報告

(期間) 4月20日～22日  
(目的及び視察地)

●富山市におけるコンパクトなまちづくりと、①シタイプロモーション事業の視察(富山県富山市)

全国的に広がっている人

口減少と高齢化・自家用車依存による公共交通の衰退、中心市街地の魅力喪失、割高な行政コスト、市町村合併による類似施設の維持、社会資本の適切な維持管理、平均寿命と健康寿命の近い離などについて、富山市では市長を中心に全庁をあげて積極的に取り組まれている。小城市においても同じことがあり大変参考になった。また雇用、居住、教育、文化、環境、防災などの整備にも積極的に取り組み全国のモデル的な事業を展開している。



る。人口規模は違うが見習うべきところが多々あった。

①シタイプロモーションとは、自治体の認知度の向上、イメージの明確化を目的とした対外的な宣伝

文教厚生常任委員会

視察研修報告

(期間) 4月20日～22日  
(目的及び視察地)

●富岡市、伊勢崎市における登録文化財を生かしたまちづくりについて

(群馬県富岡市、伊勢崎市)

明治政府による高品質生糸の大量生産のための近代西欧技術を導入。官営工場を片倉製糸が合併し保存し、世界遺産と認定された。現在では富岡市が管理している。

翌日、隣接する伊勢崎市では、田島弥平旧宅を中心とするまちづくりについて意見交換した。

世界遺産となった富岡製糸工場と隣接する絹産業群で、市職員はもちろん、まちをあげてボランティアガイド・駐車場整備・観光案内など研修を重ね、大きな混乱は起きていない。

伊勢崎市の担当者からは、隣の佐賀市も三重津海軍所跡地が世界遺産となれば、絶好の機会であるし小城市もアピールすべきとの激励も受けた。

小城市においても、行政とボランティアによる観光ガイドの育成などを急ぐ必要があると感じた。



産業建設常任委員会

視察研修報告

(期間) 4月20日～22日  
(目的及び視察地)

●大潟村の農業政策の現状と現場視察

(秋田県大潟村)

今回の視察研修では、干拓してできた大地で豊かで住みよい近代農村社会をつくるため全国各地からの入植者で形成された大潟村を訪ねた。村の歳出予算の18・5%を農業水産業費が占めており、農業が村の基幹産業であることがうかがえる。

米粉の郷づくり推進事業や米粉プロジェクト支援事業などにも取り組まれている。また、大潟村では担い手育成対策に力を入れており、多くの支援事業の実施により、全農家の8割以上が後継者がいるとの報告であった。

米作りは村の生命線と言っても過言ではなく、全国に先駆けて、環境、消費者ニーズに対応した農業へ移行し、有機栽培の取り組みがなされている。県独自の制度として秋田県特別栽培農産物承認制度に取り組み、消費者ニーズに即した農業生産方式の拡大と流通の適正化を図られていた。

さらに、米の多



4月22日、小城市議会全議員で、衆議院議員会館会議室において、内閣府参事官より地方創生について、講義を受ける。(17ページ写真参照)